

(2) ビジョン討論会 開催結果の概要

① ビジョン討論会（三重会場） 開催結果の概要

日時	平成 16 年 11 月 22 日（月）14：00～16：00
会場	みえ市民活動ボランティアセンター ミーティングルーム1・2（アスト津3階）
発言者	今村 発子（伊勢の国おかみさん会事務局、男女共同参画推進アドバイザー） 笥 晴（栗葉小学校安全・安心の通学路づくり協働委員長） 豊田 由紀美（みえのみち女性会議副代表、亀山市くらしのみちづくり専門委員） 中西 万喜夫（一身田商工会振興会会長） 矢野 晶久（(社)四日市青年会議所前理事長）



テーマ(1)「地域資源を活かした地域づくり」

- ・ 地域の観光資源は、「本物」でなければ、訪れるお客様は満足しない。本物の地域資源を地域住民で守り、失われつつあるのであれば、これを新たに創っていくことも重要。
- ・ 地域資源には、建物などのハード面、お祭りなどのソフト面があるが、一番の地域資源はヒューマンパワー、つまり人材ではないか。
- ・ 町の賑わいについては、三重県の多くの都市で抱えている問題だと思うが、最終的には各自自治体、町で何とかしなければならないが、さらに民間の協力も必要である。行政のできることは補助を出すか規制をなくすことだと思うので、民間企業が町の賑わいを持てる方法を考えていくべきである。

テーマ(2)「安全・安心な地域づくり」

- ・ 道をどんなに災害に強く作っても、森林の保全がきちんとしていなければ、自然災害により道路が破壊されてしまうことが多々あるので、森林保全に力を入れるべき。
- ・ 身近に起こった災害を事例にとり、発生後の対処方法を各地域でマニフェストのような形で住民に連絡すれば興味を持つ人が増えてくるのではないか。
- ・ 地震が来たときに建物が壊れてしまうのはどうしようもないが、建物を少しの補強で命が助かるものにする必要はある。また助かった後の避難所や他の取り組みについてももっと考えるべき。
- ・ 災害を起こさないのではなく、被害を最小限でみんなが助かる方法を模索していかなければならない。これが一番の災害対策であると思う。

②ビジョン討論会（静岡会場） 開催結果の概要

日時	平成 16 年 11 月 25 日（木）14：00～16：00
会場	J R 静岡駅 パルシェ 7 階 第 1 会議室
発言者	市川 正明 （静岡市交通政策協議会委員、静岡市都市景観審議会委員） 大河内 昭宏（NPOユニバーサルデザインシステム理事長） 豊島 朋嘉 （港利用者（株）天野回漕店 常務取締役） 見野 孝子 （浜松市都市計画審議会委員（株）LC ウェルネス代表） 三宅 淳子 （浜松まちづくり101人会副会長、浜松市文化財保護審議会委員） 守本 尚子 （まちづくりコーディネーター）



テーマ(1)「安全で快適な地域づくり」

- ・ なぜ「安心して快適な地域づくり」に対する満足度が低いかというと、「楽しく暮らせる」、「歩いて行ける」といった、「楽しさ」が実感できない結果ではないか。
- ・ 計画や実験という段階における市民参加型のプログラムが行われるようになってきたが、作った後の検証、確認まで、住民の責任として参加させて欲しい。

テーマ(2)「災害に強い地域づくり」

- ・ 自然災害は不可抗力の部分が大きいですが、先日の台風 21 号では、人工的に造った加野川放水路によって水位が下がり、被害が軽減された。このような工事は住民生活にも役立っており長期的なスパンで実施してほしい。
- ・ 新潟県中越地震によって、人々の関心が高まっている。人々の関心が高い時にいかに広報周知させるかが大切。NPO、ボランティア、住民の協力を得て危機意識を持続させることが重要。
- ・ 身近なコミュニティにおける防災地や避難ルートを載せた防災公園マップ作りを進めてはどうか。
- ・ 災害時の情報伝達手段として、コミュニティ FM というのも活用できる有効手段ではないか。
- ・ 日頃、住民と行政との間で意思疎通できている部分とそうでない部分がある。住民が行政に望むことは、住民が欲している基本的な情報として確実に伝えて欲しい。

③ビジョン討論会（愛知会場）開催結果の概要

日時	平成 16 年 11 月 26 日（金） 14:00～16:00
会場	ウィルあいち 1 階 視聴覚ルーム
発言者	梅本 隆弘（クリーン堀川会長、黒川ドリーム会事務局長） 小池 高弘（蒲郡市民音楽祭実行委員長、蒲郡商工会議所副会頭） 服部 桂子（シーブリーズ三河湾代表） 服部 純子（岡崎市都市計画マスタープランワークショップ参加者）



テーマ(1) 「環境に配慮した地域づくり」

- ・ 堀川の水質浄化として、特定の場所だけがきれいになったというだけでは根本的な解決にはなっていない。流域全体の水質を改善するためには高度な下水処理施設が必要になってくる。
- ・ 蒲郡は豊川水系の末端にあるため、毎年渇水に悩まされ、節水等の対策を毎年おこなっている。このように地域によっては、渇水などで困っている人がいるということを共通認識として持ってほしい。
- ・ 環境意識を高めるという点では、総合学習に「海」という観点を取り入れるとよい。
- ・ 市民としては、関心はあるものの、自分が何に取り組めるのか知り得ない状況がある。一般の方々の意識を高めるには、情報提供の仕方が課題となっているのではないかな。
- ・ 湾や河川など水に関する問題は、部分的に対処するのではなく、流域の中で広域的に考えていく必要がある。

テーマ(2) 「愛・地球博の開催を契機とした交流拡大を目指した地域づくり」

- ・ 名古屋における観光を考えた場合、海外旅行客を半日程度で案内できるようなところがないのが課題だ。
- ・ 観光においては、「まちのデザイン＝まちのイメージ」という考え方が重要であり、ポリシーのあるまちづくりのコンセプトをしっかりと持つ必要がある。行政はデザインにお金をかけないが、逆にそれは非効率的である。
- ・ 愛知県内には見所がないと言われるが、実際にはいろいろある。情報発信・情報提供の不十分さが問題ではないかな。

④ビジョン討論会（岐阜会場） 開催結果の概要

日時	平成 16 年 11 月 30 日（火）14：00～16：00
会場	グランパレホテル 4 階 芙蓉の間
発言者	奥村 幸生（広見東まちづくり協議会事務局長、可児市 NPO 協会副理事長） 松島 祥久（多治見市立陶都中学校 PTA 部活動育成会副会長） 三浦 文彦（ぎふまちづくりセンター） 山田 祥子（地域づくりサターズ、NPO 法人大垣まちづくり市民活動支援会議副理事長） （田口節子→急遽欠席の為書面にて意見をいただきました）



テーマ(1)「これからの地域交通とまちづくり」

- ・ バスや鉄道事業者の協力を得て、子供や学生、障害者の方々が実際に施設を利用し、何が便利で何が不便なのかを体験し話し合った。このような話し合いを通じて何が問題なのかが互いに分かりあえる。
- ・ 子供達は小さな頃から車の生活に慣れてしまっている。バスや電車に乗る楽しさを教えることも大切。
- ・ 大型ショッピングセンターなどはすべて郊外に建ち便利になっているが、高齢者の親などがいると郊外へ車で買い物に出かけさせるのは心配。反面、中心市街地へのアクセスが不便になっていたりして、生活面で色々なアンバランスさを感じられる。
- ・ かつて柳ヶ瀬へにはコミュニティバスが無料で運行していたが、有料になってからは利用者が大分減ってしまった。柳ヶ瀬自体の魅力やまちづくりも同時に考えていかないと、利用者は根付かないのではないか。

テーマ(2)「環境に配慮した地域づくり」

- ・ 環境というのはソフト面の問題が大きいので、我々地域住民がどこまで関与できるかを明確にして、永続して取り組む必要がある。
- ・ 動植物を保護するための工夫をした道路工事をするようになったが、アフターフォローを未来永劫、維持管理できるようにお願いしたい。
- ・ 環境問題というのはまず地球規模で考え、さらに身近な地域において自分ができることから活動しないと良くならない。まずは自分の家庭からはじめて、学校や地域レベルの活動に発展していけばよい。家庭でできることはいろいろある。

⑤ビジョン討論会（長野会場） 開催結果の概要

日時	平成 17 年 1 月 28 日（金）14：00～16：10
会場	飯田市公民館 2 階 展示室
発言者	織井 秀夫（三峰川みらい会議代表） 関 京子（天龍村柚餅子生産組合代表） 羽場 好美（南アルプスわくわく倶楽部副代表） 福澤 浩（市民団体天竜川ゆめ会議会長）



[テーマに基づく課題の掘り下げ「地域の活力向上、魅力ある地域づくり」]

- ・ かつて「あばれ天竜」と呼ばれたこの天竜川の支流は荒れ果てている。地域と行政で川に活気を取り戻し子供たちのためにふるさとの素晴らしい川を残してあげたい。
- ・ 川づくりにおいては、住民の意識（モラル）を向上させることが欠かせない。子供たちへの教育を通して、人づくりをしていくことが重要だ。
- ・ 長野県は、関東・北陸・東海の三つのブロックにまたがる難しい地勢である。“天竜川流域”として、上流と下流が一体となってつながりを持てるとよい。
- ・ 地元がしっかりとした地域づくりに取り組んでいれば、観光客は来ると思う。また、そういった活動が流域へと広がってほしいと思う。
- ・ 「交流」というものは、モノではなく感触が重要だと思う。実際に土に触れる、体験する、ということを通して、地元の生活を体験することだと思う。
- ・ 河川については特定の税源がない。川税というような形で川づくりの財源を確保することを提案したい。
- ・ 天竜川が安全であるから我々も活動できる。安全な状態を将来にわたって維持していくことが大切である。
- ・ これからの観光は、箱モノでは駄目で、静岡県 の宿場町や遠州灘、三重県の熊野古道などに見られるように、地域のブランド化が必要である。
- ・ 熊野古道は地域住民の活動から世界遺産にまでなった例からも、地域が連携することが大事で、地域の活動を行政が側面からサポートしていく必要がある。
- ・ 地域づくりにおいては、地域のよさを勉強していくことと、外の人の意見を大切にすることが必要だと思う。